

大正六年十月一日發行

婦人と子ども

第十七卷
第十號

フ
レ
ー
ベ
ル
會

婦人と子ども 第十七卷 第十號 目次

秋が来た.....

私立幼稚園の發達(本邦保育界の追憶)..... 田中ふさ子

夏季林間保育實施報告..... 豊島とも子

朝鮮幼兒保育苦心談..... 京口さだ子

近頃の玩具..... 武田真一

フレীবベル會總會

本年度本會總會左の通り開催致候間多數諸君の御出席を希望致候

- 一、十月二十日(土曜日)午後一時より
- 一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて
- 一、順序

一、開會

二、會長の挨拶

三、會務報告

四、講演

○遺傳と保育

○國民性に就きて

五、獨唱

六、茶菓懇談

七、閉會

理學博士 山内繁雄君

文部省督學官 野田義夫君

長坂好子君

十月

フレীবベル會

の一本日 年幼本日

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添えます。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となり。

定價

壹冊拾二錢 □半年 郵税共七拾五錢
 郵税壹錢 □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報
 皇族畫報
 婦女畫報
 少女畫報
 日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外
 振替東京四九〇〇

東京社

婦人と子ども

秋が来た

秋が来た。晴れた日、澄んだ空氣、木の實草の實の豊熟、及び吾等と子供等との健康をもつてよき秋が来た。

ある朝の急に引しまつた爽かさに、夏の子の弛れたころが蘇る。どんよりとうたゝ寝でもして居た様な健康が、むく／＼と目醒めて来る。全身の筋肉が、すこやかなる緊張を増し加へて、行くに廣き野、攀づるに高き山を、もとめて来る。踏みしめる足の一步々々に生の力が籠り、うち振るうち振る腕に生の活々しさが溢れる。畢竟、秋は戸外の季である。更に、おのが健康を自ら戸外に味ひ樂ましむべき季節である。

大正六年十月一日
第十七卷第十號

近頃の都會生活の最大の不幸は四季の自然を知らぬことである。而して四季の自然の中、最も都會に缺くるものは秋の自然である。春は元來が人間に和する處がある。春風都門を訪れ、都人花雲に迷ふて、春の人、人間の春に酔ふことが出来る。夏は人皆青山白砂の間に避くるを常とするけれども、夏そのもの、面白味に於ては、人間の夏にこそなかく／＼に眞の味ひがある。冬の享樂はいふ迄もなく人間のもの、たゞ秋に至つては、自然の秋と人間の秋と、そこに甚しい差別がある。

人間の秋は暗く、自然の秋は明るい。人間の秋は衰へ、自然の秋は熟す。人間の秋は悲しみ、自

然の秋は歡ぶ。昔から秋を悲しきものに言ひなしたのは、人間の秋を知つて自然の秋を知らぬ多感なる都會詩人の哀歌に初まる。眞の自然の秋を知るものにとつては、晴明の朝、斜照山を焚く夕、黄金萬頃の稻田、紅熟累々の果樹園、秋は歡喜の歌、祝ひの宴、感謝の祭に忙しくて、何處に一味哀愁の潜むべき隙もないのである。出でよ。野に出でよ。而してそこに輝き渡る快活豐滿なる自然の秋の姿を見よ。

殊に自然の秋は、子供等の爲に絶好の樂園である。自然の秋は彼等の爲に、實に人類そのもの、兒童期生活を、さながらに展開し來つて、其の樸素快濶なる原始的快樂を擅にせしむるのである。椎の實拾ひ栗拾ひに天産拾食時代の蟲追ひ、小鳥捕りに狩獵生活時代の、いづれも其のまゝの情趣が味はれるとも言はれる。兎に角くにも泥まびれの尻切れ草履に野を踏みしだいて、千里我がもの

顔に馳け遊ぶ輕快活潑なる姿に、或は草に臥て滿身の日を浴びながら柿の實の甘きに舌を鼓つ無心の顔の色に、自然の子供の眞に單純にして眞に幸福なる生活を見られ得る。

秋が來た。秋が來た。山に野に、眞の自然の秋が來た。吾人は人間の秋の哀歌に順れた吾人自身の爲に、後園に日和に椎の實を拾ひ、前庭の夕日に銀杏樹の葉を拾ひ、野に蟲を追ひ、林に小鳥を狩る樂しさ。更に自ら拾ひし山の栗と自ら掘りし畑の芋の甘さを知らぬ子供達の爲に、此の自然の秋を知らしめなければならぬ。戸外の秋。子供の秋。而して健康の秋。吾人は不用意に此の好き秋を空過してはならない。

私立幼稚園の發達

Ⅱ本邦保育界の追憶Ⅱ

芝麻布共立幼稚園長 田 中 房 子

私が東京市内の幼稚園へ關係し始めたのは明治十八年からでありまして、丁度この前の小西先生のお話（「婦人と子ども」第十七卷第八號所載）の後を承けてお話するには都合がよろしいのであります。

私はお茶の水の女子高等師範を卒業いたしましたので、保育のことは小西先生から御教授を戴きました。小西先生は實際保育に御熱心なお方で御座いました。先生は御自身で子供とお遊びになりました。いたづらな理窟にこだわる前に子供と一緒に遊ぶことをお忘れになりませんでした。私はフレーベルといふ人は小西先生のやうな人ではなかつたらうかと常に想像して居りました。そ

頃のお茶の水の女子高等師範の構内には芝生もあり、山もあり、池もあり、木立もありました、先生はこの趣きの多かつた構内で子供と共に遊びになりました。先生も未だその頃はお若う御座いました、子供達はよろこんで先生を取巻いて居りました。先生が芝生にお寝轉びになりますと子供達も皆寝轉びました、よく晴れた空の下で子供達に取巻かれて先生はさも楽しさうにお伽話などを話して居られました。小西先生は私達に子供のお友達になるコツを教へて下さいました。私達は子供を遊ばせるには何うしてもあゝしなければいけないといふことを知つたのであります。

學校を卒業してから三年程、私は山形縣の方へ

行つて居りました。今の芝麻布共立幼稚園へ参りましたのは明治十八年でございます。それは小西先生からお手紙がありまして、山形にはもう三年も居たからよからう、今度芝に幼稚園が出来るから東京へ来ないかといふやうなことを申越されたのであります私は無論よろこんで上京いたしましたので御座います、而してその時からずつと引續いて共立幼稚園へは出て居るので御座います。

私は主にも東京市内の私立幼稚園の發達に就てお話しやうと思ふのでありますが、その前に私の存じて居ります範圍だけでお茶の水の模範幼稚園のことに就て一寸述べてみたいと思ひます。

お茶の水の幼稚園の主事は私の在學當時は無論小西先生でありましたが、明治二十三年に先生が聾啞學校の方へ轉任なされましてからは中村五六先生が後任となられました、しばらくして中村先生が地方へ御轉任なさることになつて、其後は大久保介壽先生が御就任なさいました、大久保先生

が又地方へおいでになることになりましたので、前の中村先生が上京して復任なさいました。中村先生の後が確か今の安井哲子先生であると存じて居ります。

模範幼稚園の變遷に就ては他に詳しく語られる方がありませうから、この位にして置きまして、それでは次ぎに私の従事いたしました市内の一般幼稚園に就て少しくお話ししてみませう。

お茶の水の幼稚園以外に市内に始めて出来ました幼稚園は牛込の共立幼稚園その次ぎが確か本所の江東幼稚園かと思ひます、しかしこれはことによると私立でなかつたかも知れませんが、それから元園町の麴町幼稚園、芝公園の芝麻布共立幼稚園が皆私立として開園するやうになりました。明治二十一年頃になりますとソロ／＼公立の幼稚園が建てられるやうになりました。又麴町幼稚園のやうに私立が公立になつたりいたしました、爾來公私の幼稚園は漸々と數が増えて参りまして、只

今では東京市中にある幼稚園の数は七十位である
と存じて居ります。

次ぎにはその頃保育の任に當つてゐた保母は何
ういふ人々でありましたらうか、それに就て少し
くお話してみませう。

明治十五六年頃に保母をして居た人々といへば
大抵先づお茶の水の女子高等師範の保母科を卒業
した人々、お茶の水の幼稚園で保母を勤めてゐた
人々、お茶の水の本科を卒業した人々でありまし
た。是等の人々の数は至つて尠かつたのでありま
す、しかし明治二十一年頃までは園の數も左程
多くありませんでしたので、以上の人々の他に少
數の手傳ひを加へたゞけで間に合つてゐたのであ
ります。しかし漸々園の數も多くなつて來ました
明治二十一年頃には保母の需要が激増したので
あります。然るに丁度その頃にはお茶の水の保母
科が一時廢止されて居りましたので保母の供給は
十分でなかつたのであります。そこで時勢の要求

に驅られて生れ出たのが東京府教育會附屬の保母
講習所(後に保母傳習所と改稱)であります。而し
て同所の創立當時には保母の需要がはげしく、急
成を要しましたので、最初の内の講習期間は半ヶ
年でありました、つまり六ヶ月の急稽古で兎も角
も社會の需要に應ずべき保母を作り上げたのであ
ります。しかしこの講習期間はその後間もなく一
ヶ年に延長されました。

保母講習所の最初の主幹は、今は故人となつて
居られる木寺安敦先生でありました、木寺先生の
次ぎに主幹となられたのは府立第一高等女學校の
校長をして居られた岩谷英太郎先生であります、
岩谷先生の後には多田房之輔先生が主幹となられ
ました。明治二十一年頃から私は同所の講師をし
て居りましたので、多田先生の後につなぎとして
主幹になつたなども御座います。それから中村
先生が主幹となられ、次いで現任の堀田要三郎先
生が主幹となられました。現今では同所の主幹は

主幹と言はずに所長と言つて居ると思ひます。

それで兎に角保母講習所からは明治二十二年に始めて第一回の卒業生を十三名出しました、爾來引續いて同所は幾多の卒業生を年々社會へ送り出して居るのであります。私は昨年來眼疾の爲め同所から辭任いたしましたが同所はこの兩三年は毎年四十名位づゝの卒業生を出すやうになりました。

現今東京市内で保育の任に當つて居られる方々は保母傳習所を卒業せられた方々及びお茶の水の保母實習科を卒業せられた方々が大部分であります。保母傳習所の卒業生の總數は現今では餘程多數に上つて居る筈であります。而して社會に於てお茶の水出身の方々などから較べて見ても却々樞要な地位に立つて居られる向もあるものであります。今私の記憶に一寸浮んだものだけでも四ツ谷幼稚園の園長山下つや子さん、朝海幼稚園の園長千葉ひで子さん、根岸幼稚園の主任渡邊孝子さん、

番町幼稚園の主任中野よね子さん、城東幼稚園の主任脇屋直子さん、富士見幼稚園の主任福田あい子さん、赤坂幼稚園の主任朝岡はま子さん等は皆傳習所の卒業生であります。同所の出身で自ら幼稚園を經營して居るものもあります、河合幼稚園（牛込）の河合千代さんの如きがそれであります。

尙同所の出身で朝鮮へ行つて園長をして居る人もあります。京城幼稚園の京口さだ子さん、庚子紀念京城幼稚園の園長大和田りょう子さんなどかその例であります。まア以上の如き有爲の材が大勢出て一生懸命に幼稚園界の爲めに盡して居りますので、日本の保育界の前途も大いに頼む所があると私は思ふので御座います。

さて、明治二十三年頃になりますと各區に公私の幼稚園が非常に多くなつて來たのであります。それと共に幼稚園に對する誤解が生じて來ました、それは幼稚園の月謝が小學校の月謝よりも高いために生じて來たのであります。つまり幼稚

園は金持の子ばかりが行くべきところであるといふやうに世間一般から見られ出したことでありませぬ。

小學校教育は義務教育でありまして國庫の補助があります、しかし幼稚園教育はまだ日本は扱て置き外國でもあまり義務教育とはされて居りませぬ、従つて月謝の高いことは止むを得ないのであります、けれども世間ではそんな簡単な事情をさへ顧みては呉れません、若しくは忘れて居ります、而してたい月謝が小學校より高いといふだけの理由で幼稚園といふものは金持の子が贅澤に通ふものであるといふやうに誤解されて了ふのは幼稚園教育のために甚だ悲しむべきことであります、私の幼稚園などは特に誤解の燒點になつて居りました、といふのはその頃は學習院附屬の幼稚園が未だ出来ない頃でありましたので、市内各所に住まれる華族の幼兒が、千駄ヶ谷、根岸、麻布、品川等からお供をつれて續々通つて來られましたの

で、芝の共立幼稚園は普通平民の子の行くべき幼稚園でないなど途法もない評判を立てられるやうになりました。それで私は華族の方々に通園幼兒の衣類はなるべく平常着を用ゐられたきことなどをとおたのみしましたが、何しろあゝいふ方々のお子さんですから銘仙を着ていらしつてもそれが糸織に見えるといふやうなわけで、他の幼兒の親御達に妙に綺羅を飾る幼稚園のやうにも見られたのであります、しかし幸ひにその後華族女學校が出來、その附屬として幼稚園も出來ましたので、身分ある方々のお子さん方は皆そちらへ行かれ、私の幼稚園は昔の共立幼稚園としてどなたのお子さんでも入れもし、又こちらでもお迎へするといふことが一般に知られるやうになりました。

その頃の保母達は何うして研究してゐましたらうか、次ぎにはこの問題に就て少しく述べてみませう。これは一面から言へば日本のフレーザー會の起源をお話することになるのであります。

確か明治二十五年の頃であつたと思ひます、その頃からして幼稚園教育に熱心な方々として社會から見られてゐた麴町小學校々々長多田房之輔先生、

番町小學校々々長丹所啓行先生、富士見小學校々々長山崎彦八先生——この方は故人となられました、柳北小學校々々長三田利徳先生、麴町幼稚園主任高橋しげ子さん、それに私などが加つたのであります、是等の人々が主唱者となつて保姆研究會といふ會が成立しました、この會は月に一回づゝ集合して保育方法を研究したのであります。つまり唱歌や遊戯を研究し、發表し、交換したのであります、それに又時々は互ひに意見を述べ合つたりしました。それから又時々は保育に熱心な學者を聘して講演して戴いたりしました、小西先生などは講師としてよくお頼みしたのであります。

保姆研究會は市内各所の有力な小學校長が先達になつて熱心にやつて下さいましたので非常に有益な活氣のある會でありました、而して常に空理

に走ることを恐れ、實際的研究を怠ることのなかつたといふことはこの會の以て誇りとするに足りることであつたと思ひます。

この會の實際的研究といふのは月に一二回位づゝ私の園を會場として開かれました、前に述べました山下つや子さん、千葉ひで子さん達が主も中心になり、多くの有志を集めて實地に就いてゝと相談し合つたり、各自の考を述べ合つたりしました。新しい唱歌や遊戯のお倉は實にこの會であつたと申してもよい位で、めいゝ新しい唱歌や遊戯を研究して來て、發表し、互ひに融通を圖つたのであります。

丁度その頃、お茶の水の女子高等師範學校内にこの種の會合がありました。それは同校の關係者が組織して居るものであります。保姆會と名けられるものであります。私は同校の卒業生でもありますし、斯る種の會合にはなるべく多く出席して自分の研究に資したいと思つて居りました

ので、この保母會の方の會員にもなつて居りました。

たものであります。

同じく保育といふことを研究の對象として二つの會合が別々に存在するよりも、二つ一緒になつて研究した方が便宜が多くはなからうかといふ説がこの二つの會の主なる關係者達から提起せらるゝやうになりました。而してこのとは言ふまでもなく結構などありますから、話は忽ちまとまりました、而して一つの新しい大きな會が生れ出しました——それがフレーベル會であります、時は何時でありましたか、確か明治二十九年の四月頃ではなかつたかと思ひますが、その邊ははつきり致しません。その頃はフレーベル會から毎年一回づゝ報告書を出して居りました、しかしその後しばらく経つてから報告書の代りに毎月一回機關雜誌として「婦人と子ども」が發行されるやうになりました、極く初期の「婦人と子ども」には私達の研究の結果や各自の園の景況などを報告し合つて居つ

明治二十年頃、幼稚園ではその保育を助けるべき玩具や諸材料を何處から得てゐましたらうか、色紙や積木は主にも九段下の佐藤正造といふ御用商人が各公立幼稚園へは納めてゐたやうであります、しかし私立の幼稚園では經費が許しませんので御用商人から材料を仰ぐことは出来ませんでした。それで私立幼稚園の保母達は皆幼兒の歸つて了つた後で紙を染めたり、厚紙を切り抜いたり、粘土をこねたりして、翌日の材料を準備したのであります。それでですから昔の保母は却々大變でありました。私の園などにもその頃用ゐた裁板や定木や庖丁が今でも残つて居ります、その頃は今のやうに打ち貫きなどがありませんので、皆庖丁で面倒な思ひをしながら切り抜いたのであります。今の保母はこれらの點から言ふと非常に樂であります、而してこんなことに時を潰す代りにもつと意味のある研究や讀書をすることが出来るのであ

りますから大變結構であります。私の園ではその頃開店した和泉橋際の東山堂から時々材料を仕入れました、東山堂からは今も尙私の園では諸種の材料を買つて居るのでありますがこの店の主人と

申しますのは明治十八九年頃に高等師範學校を卒業し、その後同校の研究科まで卒業された太田氏でしたが保育事業の漸次盛大になつて行くのを見て適當な材料を供給するものがなくなてはいけな

と考へ、自ら保育材料及び教育玩具を販賣しやうと決心したのであります。而して私の許へいろいろ聞きに來られたりなぞしました、私は結構なことに思ひましたので、自分の心附いたまゝの注意をお話したのであります、すると太田氏は私の説に聽かれて營業されたのであります。こんな關係から私の園では東山堂からよく材料を買ひ入れたのであります、太田氏はその後北海道の學校へ國語か何かを教へに行かれましたが不幸にして彼地で沒せられました、東山堂は今太田未亡人の手

に依つて立派に經營せられて居ります、故人のせめてもの心やりに私は同店の繁榮に赴くことを望んで居るので御座います。

明治二十年頃の遊戯や唱歌は幼稚園に適當したのは甚だ尠かつたのであります。小西先生のお話にもありました通りにその頃のお茶の水では式部寮から來る伶人によつて遊戯や唱歌を教へられてゐたのであります。私はその時分から唱歌は好きでしたのでかなり熱心になつて研究いたしました。唱歌に合せて奏するために琴や和琴わごんも教へられました。唱歌を習ふときは笏で拍子を取るだけでありましたが、合奏の時は伶人達が笙、箏、篳篥などを一緒に奏で、下さいました。歌詞は皆古歌をそのまゝ用ゐてありますので、今の言文一致の歌などから較べると非常にむづかしかつたのであります、幼児に唱はせるものとしては第一に調が不適當でありましたが歌詞は尙更不適當でありました、その頃の唱歌の例として「民草」といふものを

次にお目にかけてませう、これは大變長いものであり
りますから一段と二段と八段とだけを御覽願ふこ
とにいたしませう、(この唱歌に限り譜は印刷の都
合にて略す)

民 草

壹越調律旋

一段

たみくさの さかゆるときと
なはしろに みづせきいれて
みしめなわ ゆたにひきはへ
やつかほの たりほのいねの
としあらん こゝろたのみを
いまおろすなり、

二段

さとのこが ものすそぬらし
たまなへを うるわたすみゆ
さみがためとや くにのためとや

八段

とよとしの みとしにあひて
やつかたる にひすのすゝを
たきこらす かまどのけぶり
おちこちに にぎわひみちて
みたみらが さともとゝろに
うたひつゝ 忍らくをみれば
やすらげき みよのめぐみは
めでたきろかも

まアざつと斯ういつた調子ですから幼児にはか
なり不適當なものであります。しかししばらく幼
兒を離れて私達が唱つてみますと何となく優美な
昔なつかしい、のんびりとした感じが湧いて來る
のであります。

その頃の唱歌で「風車」といふのをもう一つお目
にかけてませう、これは大分御存じの方も多いであ
りませうから、昔の十二律に合せた譜を御參考ま
でに書き添へて置きませう、

壹越調律旋

風 車

カーザーグールーマ。

徴。徴。角。商。

カーゼーノ マーニー

商。角。徴。角。商。

ーマーニ。メーグールー

宮。宮。商。商。角。

嬰羽^シナリー。ヤーマーズー

角。徴。嬰羽。嬰羽。宮。

ーメーグールーモ。ヤー

嬰羽。宮。徴。角。商。

ーマーズ メーグールー

角。角。徴。角。宮。

ーモ。 商^シ 嬰羽^シ

宮。

それから次ぎには遊戯の見本をお目にかけてませう。「家鳩」といふのであります、先づ歌は次の如くであります。

平 調 律 旋

家 鳩

イーヘーバートーノ。

商。商。角。角。徴。

スーソートーヒラー

宮。羽。羽。徴。徴。

ーキーテ。ハーナーチー

角。角。商。商。角。

ーヤール。ユークーヘー

商。徴。嬰羽。嬰羽。宮。

ーヤ。イーゾーコ。ヤー

嬰羽。角。角。徴。嬰羽。

ーマーニ。ノーニ。シー

宮。羽。徴。角。商。

ーバーフーノーハーラー

商。商。角。角。徴。

ーニ。アーソーブルーラー

角。宮。宮。宮。嬰羽。

ーシ。アーソ。ビーテ

宮^{〇〇}。徵^〇。徵^〇。羽^一

ーアーラーバ。カーヘー

徵^〇。徵^一。角^〇。商^〇。角^〇。

ーラーナーン。トクク

角^一。徵^〇。角^〇。嬰羽^〇。嬰羽^〇。

ーカーヘーラーナーン。

宮^〇。宮^一。徵^〇。徵^一。角^〇。

カーヘーラーズーバ。

商^〇。商^一。角^〇。商^一。宮^{〇〇}

スーノートートーデー

宮^〇。嬰羽^〇。嬰羽^〇。宮^〇。宮^一

ーテーン。スーノートー

羽^〇。羽^一。徵^〇。角^〇。羽^一

ートデーテーン。

徵^〇。角^〇。宮^{〇〇}。宮^{〇〇}

この唱歌は遊戯に用ゐるのであります、幼兒が

手をつないで環をつくりまゝ、これが鳩の巢であ

ります、鳩になる子は二三人別にきめます、さて

始め鳩は巢の中に入つて居りますが「すのとひら

きて」でつないで居る手を離します、すると鳩は

巢から出てわきへ行つて遊んで居ります、やがて

歌が「とくかへらなん」のところへ來ますと鳩は

急いで歸つて來るのであります、かなり簡単な遊

戯でありますがその頃はこれでも却々幼兒による

こばれ、度々くりかへされたのであります、お茶

の水の保姆科へは、私の在學して居りました頃は、

毎週一回づゝ伶人が來られて右の唱歌や遊戯を教

へられたのであります、尙二級になりました卒業

間際になりますと琴や和琴をも習はされました。

丁度この頃メーンン先生が同じく唱歌を教へに來

られたのであります、メーンン先生は小西先生の

お話にもありました通り非常に熱心に私達を御教

授下さいました。先生は或る時「家鳩」の譜を御覽

になつてピアノですぐ弾いてちやんと私達の唱ふ

通りの調子に弾かれたことがありました、先生は

日本語を御存じありませんが十二律の譜を御覽になつて即座にピアノの譜にお合せになつたものと見えます。先生の御教授に御熱心であつたとは實に非常なものでありました、本國の亞米利加へ歸

られる時などはいよく今日御出發になるといふその日に旅鞆を提げて學校へおいでになり、御歸國といふことをお忘れになつたのではあるまいかと思はれる程、熱心に御教授下さいました、而していよくお別れの時には、皆と一緒に舟へ乗込んで航海中音楽をやりながら亞米利加へ行くことが出来たらどんなにうれしからうなどと仰有いました。私達はその頃は研究や實習で毎日いそがしがつてゐましたので、メーソン先生が熱心にお教へ下さる有難さをそれ程に思はず、先生がお見えになると「またメイソンが來た」といふやうにあまり先生の御熱心には副はなかつたのであります、私は今でもこのことは先生に對して實に相濟まなかつたと思つて後悔して居るので御座います。メ

ーソン先生が言語が通じないにも拘らず幼稚園の幼兒にお慕はれなされたことは小西先生のお話に見えて居りましたから茲には申上げません。

遊戯はその後もしばらく「家鳩」のやうなものが用ゐられてゐました、古歌の遊戯がいゝといふわけではないのですが、他に代るものがなかつたからであります、その後餘程經つてから大阪の大村芳樹先生が「音樂の榮(?)」といふ御本をお拵へになりました、これにはいろ／＼それまで行はれてゐた遊戯を蒐集して、幼兒に適するやうに改竄されてありました、この本が本邦に於ける遊戯書の嚆矢かと私は思つて居ります。

以上私のうろ覚えを辿つて順序もなくお話し申上げましたので間違つて居る點も尠くないと存じます。たゞ私の覺えて居るやうにお話ししたいたいであります、多少とも本邦幼稚園發達史の材料になります箇所があれば幸で御座います。

夏期林間保育實施報告

神戸幼稚園保母 豊島 とも

一、林間保育施行の理由

文化の開展に伴へる商工業の進歩と交通機關の發達は都市の發展となり彼我相俟つて空氣清澄樹木鬱蒼たる閑靜境を次第に變じて黑煙濛々熱鬧轟々たる非衛生的地と化せずんば止まざらんとす。

従つて都市の幼兒の身體は虛弱に傾き疾病に對する抵抗力弱く、或は腺病或は消化器病、呼吸器病、貧血等不健康なるもの益々生ず、國家の將來を思へば實に看過するに忍びざるものあり。

童に身體の方面に止らず他面に都市の幼兒は自然界と接觸する機會乏しく徒に人爲的刺戟の送迎に暇なく遂に幼兒の神經中樞を紊亂せしめ爲に些細の感情にも動き易く、意志弱くして遠大の思慮

を缺く者の多きを見るが如き感あるは等しくこれ都會の繁雜な生活狀態の然らしむるに非ざるか、實に國家の前途を擔へる幼兒の不知不識して神經過敏の病弊に陥らんとしつゝあるは誠に黙止に堪へざる所なり。

吾等幼兒保育の任に當れるもの、極力これ等諸弊を削除して幼兒心身の健全なる發達を期せんとして特に其體育に留意すること積年（大正二年四月より大正六年三月に至る四年間）毎月施行せし身體検査によりて見るに夏季溫度上昇の季に向ふや幼兒の身長は發達の著しき時期なるに拘らず其の體重の減少を發見せり特に腺病質消化器病神經質貧血等の幼兒に於ては其一層著しきもの、如くなるを認めたり。

於是乎吾等躊躇することなくこれ等の身體虛弱者を一團として林間に於て幼児の自發活動に基ける純自然の保育を施行すれば或は此の傾向を矯正することを得べきかと想到せり。

勿論今日吾等の園内に於ける保育の方針も體育を主眼とすと雖も集團的幼稚園生活に於ては其必然の結果として多少の訓練的又形式的方面を全々捨て去るを得ず依て全くそれ等の拘束を離れたる林間の保育を施行してこれ等幼児を出來得る限り空氣清涼環境浩濶にして



身體虛弱

愉快なる生活の下に置き都會生活より來る諸種の

弊害より救はんとせり。

抑々我が神戸幼稚園に於ては常に心身共に雜鬧なる市街の家庭生活に於けるよりも衛生的なる境遇を幼児に與へんと努力するのみならず平時は隔日に郊外保育を勵行しつゝありと雖も夏季に於ては途中炎熱堪えがたく且保育時間短縮の爲め豫期の効果を收め難きを以て今回試に早朝より夕刻に至る林間保育を企つるに至りしなり。

要するに今回の林間保育實施の理由は園兒二百の中特に身體虛弱又は神經過敏

なりと認めたる幼児を撰み此等の幼児の夏季に於ける身體發育を向上せしめ併て將來に於ける保育の方針を樹てんとするにあり。

二、保育者

園長望月クニ子氏指導のもとに不肖主任として専ら其任に當り、園醫倉地同之助氏は顧問となり、保姆石田ユキ子、長塚政子、高田福子、住田はる子、野藤直子の五氏隔日に之を補助せらる。

三、林間保育施行幼兒

(イ) 左の條件に該當せしもの

- 一、身體虛弱と認められ園醫の診斷により林間生活の必要ありと認められたる者
- 二、神經過敏にして刺戟少き林間生活を營むを以て適當なりと認められたるもの
- 三、病後林間に於て十分なる運動と新鮮なる空氣の呼吸及適度の飲食物の供給及休息等によ

(ロ) 幼兒數

りて健康を回復せしめんとする者

二十一名

最初より加入せしめしもの十三名
成績可良なりしたため中途より加入せしめし者八名

之を體格によりて分類すれば左の如し。

1. 體格弱なる者十六名
2. 同 中なる者四名(中神經過敏三名病後一名)
3. 同 強なる者一名(病後一名)

四、時 日

自大正六年六月二十二日

至大正六年七月二十日

自午前八時 至午后四時

五、場 所

一、屋外

諏訪山を中心とせる附近の林間

二、屋内

イ、自六月二十二日至七月七日十六日間は、諏

訪山麓武徳殿弓場休憩所にして多少狹隘且通

風稍全からず殺風景のきらひありき。

ロ、自七月八日至七月二十日十三日は諏訪山中

腹妙見寺下なる澤田善一郎氏別荘なり、こゝ

は廣潤なるが上に採光通氣良好にして風景絶

佳前栽の樹木鬱蒼として時に蟬しぐれの聲を

聞き一望の下に收むる大洋の白く輝く浪を渡

りて不斷の涼風訪れ來りために苦熱を忘るゝ

處なり。

大部分の保育を行ひたる諏訪山附近一帯の地は都

市炎熱雜鬧の域を離れ北には打ちつづく山を負ひ

南の方即前面は市街を隔て、大海を一望の内に收

むる高燥なる臺地なり。加ふるに人境遠く風致上

惡影響を蒙るが如き憂ひ無く、神社有り佛閣あり

實に神戸市景勝の地と稱すべし特に林間保育には

眺向きの松林あり潮水と樹木とによりて調節せら

れたる新鮮なる空氣は各自の肺活量に比例して思

ひの儘に呼吸し得べし。

更に幼児生活上の材源とも言ふべき自然界の現

象に缺くる事なく鳥飛び蟬鳴き蝶は幼児といづれ

劣らぬ舞ひ振り見せて、摘みても盡きぬ草花は地

に綾なし掬しても余りある自然界の無限の趣は事

毎に幼児の興味をそゝり好奇の心を起さしめ不識

して幼児の睿智を啓發せしめざればやまず、更に

又土地の高低は幾多の坂となりて、一つには幼児

の運動の量を多からしめ又身體活動に變化あらし

む。

六、保育の方法

(イ、遊戯)

幼児の欲するが儘に恩物を貸與する事あり、自然

物其他によりて製作する事あり動作遊戯を行ふ事

あり談唱する事あり只之等を行ふに當りては常に

て適度の運動をなすことは體育上、有効なれども

幼兒の内的生活の表現に委せ自由に一齊に個々に時に臨み機に應じ之が善導に努めたり、大體は自由に委するの遊戯方針を採り些かにても規則的なりと認めらるる事を爲すに當りては幼兒其時々的心身の狀態疲勞の程度に照して彼等が少しにても窮屈に感ずるが如き場合には害なき限り之を看過せり。

遊戯中にて彼等の好むところの一つは歩行に基く遊戯なればこの自然の傾向を可成重じたり而し



運動の分量と種類とは各人の體質に相當せざれば効果少し而して歩行する事は其運動量に於て各人の體質に應じ又全身運動法としても適當なりと稱せらるゝを以てなり。

次に彼等の好むところは自然物を材料としての實生活の模倣なり而して此の材料の無限にして幼兒の要求を満足せしめ得たるは該保育の長所なりとす。

(ロ)、晝食

午前十一時三十分頃各自携帯せる辨當を用意し手洗ひ口嗽ぎ自由に愉快に話し

つゝ食する事園内に於けると同様なり。

(六)、午 睡

午後一時頃より三時頃に至る間に行ふ、通氣好き座敷に毛布を敷き腹部に毛布を被ひて午睡せしむ準備として各幼兒は鞆前掛けを去り帶紐を寬にし身體の汗を拭ひ去り氣持良き境遇の内に心安くねむりに入る。寢付き悪しき者には軽く柔かく歌ひつゝ添ひ寐して寐つかしむ。

(ニ)、間 食

午後三時頃。

品質はパン類キャラメル、ビスケット、カステ

ーラの類、分量は一人一回三錢平均。

次に日々幼兒の生活状態の大略を示さん(勿論確定せるものに非ず幼兒の刹那刹那の状態によりて變化ありしなり)

一、幼稚園出發(午前八時前後)

林間近傍の者は暑氣加はるに及びては直接目的地に到らしむ。

一、途上の状態

園長望月クニ氏及有志者生島四郎左衛門氏邸に立寄りて休憩し且つ欲する者には飲料水(白湯又は冷麥茶)を與ふ。幼兒の心の嚮ふがまゝに此處にても或は談唱し或は自由遊戯する事あり、其他風涼しき樹下清潔なる石階等彼等の意に委せ休憩せしめたり。

一、目的地到着(九時三十分より十時三十分)

一、洗足履物整頓

一、氏名點呼

一、所持品整理

一、隨意室内休息

一、遊 戲

恩物を貸與し或は製作遊びをなさしめ或は自然に接觸せしめつゝ林間にて自由遊戯談唱等幼兒の心意の嚮ふがまゝにし、又天候に徴し、幼兒疲勞の狀に鑑みて殆んど彼等の自發活動を補導するに止り、全然家庭的なり。

一、晝食(午前十一時三十分)

一、室内休息(日々出席表に貼紙す)

一、午睡準備

各自保姆の援助により毛布を敷き枕を携へ來り

鞆前掛、帶等を脱す。

一、午睡(午後一時頃より三時頃まで)

一、身仕度

覺醒せし者より順次洗面、結髪、身體の冷水拂拭。

一、自由遊戲

午睡後は不思議にも自然に庭園の植込の樹蔭に
莫塵を敷きて遊びたり之幼兒の活動は午睡後には
稍遲緩なるためならんか。

一、間食(午後三時後)

準備の洗手後快談しつゝ、楽しく行はる。

一、最後に全兒を統合して談唱などを行ふ。

一、歸宅準備

一、退出(午後四時後)

七、衛生方面の注意事項

一、林間保育を施行せんとせる幼兒は必ず一度醫師の診斷を受けしむ。

一、常に急救藥品類を準備す。

一、晝食事は其辨當の量、品質、咀嚼の程度に注意す。

一、飲食、睡眠、疲勞の狀態等は出來得る限り毎日家庭との連絡を保つことに留意す。

一、間食は各幼兒一定のものを與ふ。

一、飲料水は必ず一度煮沸したるものを用ひ其分量に注意す。

八、成績

イ、身體上

一、體重の著しく増加せしこと(別に項後に解説す)

一、皮膚赫褐色となり抵抗力を増したるもの、

如し。

一、食慾を増進せしめし事（施行前食慾の進まざりしもの三四名ありしがこれを回復せり）

一、健脚となりし事。

一、活動に馴れたること。

ロ、精神上

一、友誼を篤うせしこと。

變化ある生活即丘あり坂あり樹あり花あり鳥あり蟲あり苦樂伴へる環境内にありて長時間共同の生活をなす間には自ら互に優良の感情を養ひ得たり。

一、保育者と幼児との關係密接になり殆んど母子の情を生ず（個性の觀察を便ならしめしこと多大なり）

一、浩然の氣象を多少なりとも養ひ得しこと。

一、智能の啓發はもとより期するところにあらざりしと雖も從來識らざりし方面の知識を得し事と信す。

○身體的方面の發達狀態解説

1. 身體の検査

林間保育實施の第一日即六月二十二日（金曜日）の朝より始め一週間毎に石田保姆體重、身長、胸圍を測定し之を各個のカードに記載し且つ園醫倉地同之助氏は最初及最終に於て健康診斷を行へり。

2. 結果

保育せし幼児は計二十一名にして最初より加入せるもの十三名内にて四週を通じて皆出席者七名を採りて全體の成績を調査せり。

身長	人數	增加量				胸圍	人數	增加量												
		着手一週後	着手二週後	着手三週後	着手四週後			着手一週後	着手二週後	着手三週後	着手四週後									
7	329 <small>分</small>	330	330	330	331	2 <small>分</small>	7	367 <small>分</small>	370	371	375	377	10 <small>分</small>	7	164 <small>分</small>	165	165	165	166	2 <small>分</small>

身長、胸圍は分を單位とし以下四捨五入す
體重は十匁を單位とし以下四捨五入す

九、在園兒の比較

林間保育の成績身體的方面の中身長、胸圍等は
暫く措き今茲には體重のみを普通の兒童の發達と
比較せんとす。

(イ)、大正五年夏期市内神戸楠兵庫城口の四幼稚園
協同調査にかかる成績は左の如し。

(1) 調査人數 四十四名。

(2) 調査期間 自大正五年六月十九日至十月二日

十五週間なるも今此處に比較のため引用せん

とするは其一期間即梅雨期の中始めの四週即

ち自六月十九日至七月十七日。

(3) 保育時間 各幼稚園内にて普通半日保育。

(4) 成績 一般に梅雨期は體重の増加せざる傾向

あるにや左の如き結果を得たり。

(ロ)、大正六年五月より楠幼稚園に於て毎週體重を
調査せられつゝある成績は左の如し。

(1) 調査人數 八名。

(2) 調査期日 自大正六年六月十八日至七月十七

日四週間を引用す。

(3) 保育時間 楠幼稚園内にて普通保育(半日保

育)

(4) 成績

體重

増加(上昇標式)十二人	體格強(92%)中(50%)弱(2%)
増加して減少(混合標式)七人	體格強(57%)中(14%)弱(29%)
減少(下降標式)廿五人	體格強(40%)中(48%)弱(12%)

體重

増加(上昇標式)三人	體格強(33%)中(67%)弱(0%)
減少後増加(混合標式)三人	體格強(0%)中(100%)弱(0%)
減少(下降標式)二人	體格強(50%)中(50%)弱(0%)

(六)、林間保育成績

- (1) 調査人員 七名。
 (2) 調査期日 自六月二十二日至七月二十日四週
 (3) 保育時間 林間終日保育。
 (4) 成績

體重比較表 (一)

昇式	人員	人數	最	一	二	三	四	增	分		
			初	週	週	週	週	加	人員		
			量	比							
昇式	大正五年神、兵、楠、城、四園の調	12	402 <small>四百十名</small>	403	406	406	409	7 <small>十名</small>	27%		
	大正六年楠幼稚園の每週調	3	438	442	440	447	447	9	37%		
	大正六年今回林間保育の調	6	355	357	357	365	366	11	86%		
混合式	人員	人數	最	一	二	三	四	增	分		
			初	週	週	週	週	加	人員		
						比					
			量	比							
混合式	神 兵 城 楠	7	433 <small>四百十名</small>	434	436	435	433	0	16%		
	楠 幼 稚 園	3	450	449	442	445	449	-1	37%		
	神 戸 林 間	1	440	428	435	435	440	0	14%		
降式	人員	人數	最	一	二	三	四	增	分		
			初	週	週	週	週	加	人員		
						比					
			量	比							
降式	神 兵 楠 城	25	439 <small>四百十名</small>	436	435	436	430	-9	57%		
	楠 幼 稚 園	2	426	423	424	423	419	-7	25%		
	神 戸 林 間	0	0	0	0	0	0	0			

體重比較表 (二)

人員	人數	初	一	二	三	四	增
		週	週	週	週	週	平均一人
							量
大正五年神、兵、楠、城、四園の調査	44	428 <small>四百十名</small>	427	427	428	425	-3 <small>十名</small>
大正六年楠幼稚園の每週の調査	8	440	440	438	440	441	+1
大正六年今回林間保育の調査	7	367	370	371	375	377	+10

(三)、前記三種の調査を一覽表に示せば次の如し。

增加(上昇標式)六人
 體格強(○)中(1%)弱(83%)
 體重(減少後增加(混合標式)一人
 體格強(○)中(○)弱(100%)
 減少(下降標式)○ 體格

十、參考の爲め

該保育施行期間の氣壓、氣溫、濕度の表を示せば左の如し。

但し便宜上所定の週間内神戸測候所調査の毎日平均溫度、濕度、氣壓の各を加へ之を七等分して其次週の溫度、濕度、氣壓と定め之によりて曲線を作りたり。

要するにこの方法により幼児の體重が氣象と何等かの關係あるなきやを見んとせしなり。

氣象表

		第一週	第二週	第三週	第四週	第五週
大正五年度	氣	753	753	752	753	755
大正六年度		750	753	750	753	757
大正五年度	溫	74	76	75	77	76
大正六年度		69	77	81	78	82
大正五年度	濕	82	86	86	82	80
大正六年度		79	76	83	82	68

今林間保育は特別なる試みなるを以て暫く措き同じ境遇の下にある大正五年及六年の撰擇せざる普通の幼児の體重發達と氣象との關係を考察するに氣壓は兩年大差なきを以て之を省略し單に濕度と溫度を比較するときは左の如し。

	溫度	濕度	體重
大正五年	低	高	32% 68%
大正六年	高	低	60% 40%

これを以て見れば溫度の高低よりも濕度の高低の方體重に影響あるもの、如し。

十一、結論

比較表(一)により體重増加の人員百分比に於て見るに體重の上昇せるもの、率、四園調査の57%、楠の37%なるに比して林間保育の88%なることは即體重の増加せる人員の極めて多きを示すものにして混合式(6%)(四園)、37%(楠)に對し林間保育の

よ、即其人員一名なりしこれとて決して體重を減少したるものにあらず、更に體重を減少せる人員百分比は四園調査の $\frac{3}{4}$ 、楠に $\frac{1}{4}$ に對し林間保育に在りては一名もなしこれを以て見るも林間保育の効果の著しきものなるを知るなり。

1. 勿論三種の調査は同一幼兒を行ひたるにあらず多少各兒の個性境遇には相異ありしとは雖も尙今回の成績の良好なるは云ふ迄もなし。

次に比較表(二)につきて普通の幼兒の體重の増減のみを比較するに昨年の四園調査の平均一人の減少量三十匁なるに比し本年の楠の平均一人十匁の増加は好成績なりと云ふべし、これ思ふに氣象との關係に因るにあらざるか、即溫度に於ては昨年の七十五度六分なるに對して本年は七十六度一分にして大差なけれども濕度に於ては昨年の八十五度五分に對して本年は七十六度一分なり。

2. 依て今同氣象の下に行はれたる楠の園内保育と本園林間保育とを比較すれば楠の平均一人の體

重増加量十匁なるに對し林間保育の平均一人體重増加量は百匁なり。

而して梅雨期より夏季に於て幼兒の體重の増加少く反つて減少する傾向あることは既に本園の調査に依りて知れる所にして又大坂府保健課勤務醫學士竹村一氏よりも大坂市に於ける調査の結果も同様なる事を伺ひたる事あり、故に今回の林間保育成績と比較したる四園調査及楠の調査による成績も決して不良なるものにあらずして普通の状態なりと云ふを得べし。

然るに更に今回この良成績を得たるは思ふに普通の園内保育と異なる特殊の林間保育を施行せし結果なるべし、(3)然らば普通保育と異なる林間保育の優れたる點は、

一、時間

普通半日限りにして半日は家庭保育なるに比して終日保育なりしこと。

一、氣象上

高地なるにより濕氣少なかりしこと。

空氣の極めて清澄なりしこと。

溫度は通風よろしき樹蔭なるにより涼しかりしこと。

一、環境

園内に比して高燥にして宏潤綠樹は鬱蒼として人爲的刺戟極めて少き良境遇なりしこと。

一、運動と疲勞と疲勞回復

運動量大なるを以て疲勞の度も大なれどもこれを回復するための午睡飯食ありしこと。

一、保育方法

極めて自由なりしこと。

以上を概括すれば身體の虛弱者に對しては林間保育の最も適當なるを知るべく若しこれを普通の幼兒に行はんには更に一層の効果を收め得べし故に體重を主眼とすべき幼稚園保育にありては林間保育を本體とすべくやむを得ざればこれに類する保育法を行ふべきものなるを確信す。

十二、感想

前述の如き目的を以て約一ヶ月に亙り實施せし第一回の林間保育を終るに及び感じたる儘を一言せん。

總て人爲の業たる如何に周到なる用意を以てするも着手の最初に在りては經驗の淺き知識の及ばざる等の事ありて多くは思はざるに障害を起して豫期の結果を收め難きが常なり。

而して今回菲才無經驗の吾等我園最初の試みを實施せんとするに當りては實に戰々恐々薄氷を踏むの思ひありき、只專念幼兒の身體及精神の状態に着目して臨機最善と信じたる方法を探りしのみ幸ひに只一人の例外者を除くの外は各自豫想以上の發達をなし、意外の成績を收め得たるは誠に有志諸氏援助の力に由ると雖もしかも天運なりと云ふべし、僅か一回の成績を以て直ちに結論するは早計に失すと雖しかも都市の幼兒の體育には林間

保育有効なりとの確信を得たり。

日毎／＼に辨當かたげ憚るところなく歌ひつゝ、目的地に到達し、さて思ふさへ心地よき環境の内、に何等の拘束なき自由の天地を見出し盡きぬ自然界の材源を右より左に所置する態度の熱心なる、背に汗し顔面林檎のそれの如く見るから元氣づきこれが平素園内に於ける彼等とは何人も受取り兼ねる活動振りに晝の食事はいつも待遠く「先生、モウオベン！」これは日々十時頃より幾度か繰返さるゝ言葉なり要するに空氣の清鮮にして運動量の大なるがために食事はすすみ疲れては憩ひ日盛りは午睡に過ぎて又様々の遊戯にさて一日一度の間食に舌鼓うつ彼等の笑顔は天地何物にもたとへがたし。

特に如上の生活の間に深く又切に感じたる事は
(一) 幼児の疲勞と回復の問題なり。

幼児の活動に基く疲勞は午睡休息及飲食を適當に與へざれば子供本然の活氣を回復して十分な

る發達を遂ぐる事の難きをさとりぬ。

(二) 前説の如く保育者の幼児との親善關係は平素に於て見る以上の母子的親愛を加ふる事なり。

(三) 子供は常々其境遇に安んずるの必要なる事を知りぬ。

多少なりとも不安の念を抱けば疲勞の回復も覺束なく到底健全なる發達をなさぬものなること即午睡の際に於ける場所につきて不安を感じるにせんか必ず安眠し得ざるなり、多數の幼児は保姆の柔かき視線の内にて安んじて寢に入るとは云へ一二の然らざる者もあり、かゝる者も添寢によりて心を安んぜばしばらくして愛らしき寢息を漏すものなり。

(四) 幼兒相互の親密なる關係は側の見る目も心地よきばかり絶えず柔かき薰風の中に在る思ひあらしむ年長者は幼者を勞り往還の途上遊戯中或は飲食の間物品整理の際日々見馴れし目にも時に涙催す程いぢらしき優良なる感情を表す事あり

物を配つ際の如き多くは幼児の本能としてそこに競争的となるものなるにこの天地には全くそれ等の事を見出し得ず。

(五) 食事睡眠時遊戯中絶えず幼児をして氣持ち良き境遇に置く事の必要なる事そは即ち子供は一般感覺に支配せらるる事多く環境の不快なるため何となく氣のいらだつものなるが之を抑制する力極めて弱きものなるを以てなり。

(六) 此の期間の保育に於て漸々神經質幼児の額八字皺の伸ひる事著しく接する人をして等しく快感を起さしむ。

(七) 無口の幼児の急に快談する傾向となり時に園内の保育室に歸りし際保姆を驚かさ程元氣付きし者を生ずるに至れり。

かくの如く營まれたる十數名の幼児の生活は全く世の常の様とも思はれず人事の刺戟めきたる何物もなき包容窮りなき大自然の内に送りし四週間の日子は短かけれどもこれ等幼児にとりては意義

あるものたりし事を疑はず。

(右報告中多數の圖表を添へられたれども版刻の都合上割愛したり。筆者及讀者諸君に謝せざる得ず。編者)

秋の句より

世の中や鳴く蟲にさへ上手下手
鬼灯や七つぐらゐの小順禮
おりよ雁一目さんに我が前へ
向いた方へつんむいて菊の花
團栗のねんくころりくかな

——一茶——

朝鮮幼兒保育苦心談

京口 さだ子

京城幼稚園の開園式を行いました當時は、まだよく様子が分りませんので、すべてがてんやわんやで、毎日へまなことをしまいとするために並大抵の苦勞ではありませんでした。幼稚園と云ふものに對しては小使も初めて、助手も初めて、父兄も初めてです、斯う澤山の初めての人々が集つて幼稚園といふ一つの機關を運轉させて行かうとするのですから却々大變です。

共に働いてくれるべき人々は今申しました如くすべて無經驗な方々ばかり、幼兒には言語が通じない——何を何うしやうとするにも常に隔靴搔痒の感が伴はないわけには行かないのであります。

本當に最初の一ヶ月間は殆んど夢中に過してつたと言つてもいい位なものであります。しか

し京城に幼稚園が出来たといふことは、かなりに社會の注意を惹き起しました。設備も整はず意に充たぬ勝ちの幼稚園は開園と共に多くの參觀者に訪れられたのであります、見るもの、尠い京城に於ては幼稚園の新設といふことも、かなりの人氣を受けるのであります、日本人の方は随分參觀に來られます、殊に開園の翌日には出羽大將の御一行なぞも見えられたのであります。

茲に私の非常にうれしく感じたことが一つあります。それは開園してから二ヶ月ばかり後の事でありましたが、或日幼兒達は遊園へ出て砂をもてあそんで居りました、其時近くの高普通學校から「君が代」の合唱が聞えて來ました。さうしますと今まで砂いぢりに我を忘れてゐた幼兒達はこ

の「君が代」を聞きつけて、一齊に「君が代」を唱ひ出しました。朝鮮の幼児は唱歌は實に上手であります、彼等の唱つた「君が代」は實に美しく

ありました。私はこの時ハツと思つて幼児達の顔を黙つてみまもつて居りました、涙がおのづと頬を傳つて落ちて來ました、幼児は國歌を十分に覚え込んでくれた、この可愛らしい幼児達の口々から「君が代」を聞いた時自分の今までの少しばかりの勞苦は十分に酬いられた、一斯う考へて來ると私の心は大なる感激に充たされないうけに行きませんでした。この清いうれしさ、私は斯る經驗は幾度も經驗されるものではあるまいと、いまだに其の時の經驗をうれしく、貴いものに思つて居ります。幼児の入園を勧誘に行つてすげなく撃退せられた時のくやしき、なさげなさ。それを思ひ返すとき私のよろこびは更に倍加されるのであります。私は泣きました、しかしそれは徒らなる感傷の涙と見られるにはあまりに清く、貴くあつ

たと飽くまでも自負したい要求に私は迫られるのであります。

一體、幼稚園の仕事には反響が誠に尠いのであります。しかし私の幼稚園に於てはその日／＼に目に立つ反響があらはれて來るのであります。私の幼稚園では國語を教へることが先づ第一になります、幼稚園で保育を行ふことは言ふまでもありません、それですから保育を致しますと今更らしくは申上げません、しかも私の幼稚園では保育を行ふといふよりも寧ろ國語を教へるといふことの方に強點が置かれてあります。國語と日本の習慣を覚え込ませること、これが京城幼稚園の特徴でありまして、幼児保育と共に最も力を注いで居る點なのであります。國語教授といふことは前にも申しました通り幼児の父兄の希望でもあり、又朝鮮に於て學問をするためには是非とも必要なのであります。

幼児に日本語を教へる爲めには先づ單語を覚え

させます、それには一々の事物に就て實物教授を
するのであります、鼻を指して「ハナ」と教へま
す、而してその次ぎにおさらひをする時には鼻を
指しながら「イゴモヤ」（これは何ですか）と聞
きます、さうすると幼児は言下にハナと答へるの
であります。朝鮮の幼児は又先天的に言語が上手
であります、それ故直きに單語を覺えるのであり
ます。

朝鮮の幼児は家庭に居ても少しも面白いことは
ないのであります、何故と申しますに朝鮮の家庭
では老人本位でありますから子供なぞにあまり注
意しません、それで子供は大抵三疊位の部屋へ遊
び友達も、おもちゃもなしに棄て置かれるのであ
ります、それ故彼等は實に退窟なのであります、
それで彼等は幼稚園へ來ますとすべて目に映るも
のが皆めづらしいのであります、石板も始めて見
た、石筆も始めて見たといふわけで、彼等は丁度
私共が洋行したやうにいる／＼のめづらしさを經

験するのであります、それ故見るもの聞くものに
就て「イゴモヤ」と言つて保姆に尋ねるのであり
ます、それ故彼等の間には何時の間にか日本語を
覺える興味が湧いて來るのであります。而して彼
等は争つて日本語の單語を採集しやうとするので
あります、それ故私達の仕事は反響がありすぎる
位で實に張合がいゝのであります。彼等は一日幼
稚園へ來れば一日だけ改良されて行くのでありま
す。彼等は何處へ連れて行つてもおもしろがり、
めづらしがるのであります、日本語を覺えるとい
ふことが一つの遊戯のやうになつて了つて、彼等
は形を見ると同時にそれに伴ふ言葉を覺えるので
あります。彼等は幼稚園が面白くて／＼仕方がな
いのであります、それですから家庭で少し加減で
も悪くならうものなら、明日幼稚園へ行くことが
出來ないかと氣を撈んで「早く藥をのませて、明
日幼稚園を休ませてくれないやうに」と家の人々
に頼むさうであります。

以上の如き有様ですから幼児は三月も経つと、

幼児の用ゐる普通語を大抵理解するに至るのであります。尤も自分で話すことは未だ却々容易ではありません。一年経つとこちらで言ふ言葉は殆んど皆理解するやうになります。二年目にはもう彼等は日本語で發表を始めます。「先生、あの人がね」などと他人にいちめられたことを訴へに來ます。「あの人がね」で一寸詰まつて了ひます、そこでこちらから「打つたの」と聞いてやります、さうすると幼児は「え、打つたの」と言ひます、「よし、ひつぱつておいでなさい、叱つてあげますから」「ハイ」と言つて駈けて行きます。まあ斯ういつた調子でこちらでチョイ／＼補つて助けてやると何うやら話は出来るのであります。

幼稚園では斯うして口の用語を覚えさせます、小學校へ入つてから彼等は本の國語を教へられるのであります。幼稚園を出て小學校へ行く頃には彼等の國語は授業をうけるに足るだけに進むので

あります。

幼稚園を出て小學校へ行つた生徒は一週間に一度位づゝ學校の歸途に幼稚園へ立寄るのであります、而して時には成績表なども持つて來て私達に示します、彼等は何時まで私達に對する愛敬の情を失はないのであります。一體朝鮮人は師を尊むの念が厚く、弟子は先生のところへ米を持つて行つて養ふといふやうな習慣さへあつたのであります。それ故彼等がその出身幼稚園を自分の家の如くに考へて度々訪れて來る心根は實に可愛らしいのであります。

尙私の幼稚園に於ては内地で出来る幼年雜誌類を唯一の教科書として居ります。幼児はこれらの雜誌の挿畫を貪るやうにして見るのであります、而していろ／＼の質問をいたします。言ふまでもなく私達は出来るだけ分り易く説明をしてやります、それから又國語教授の目的を達する上に於て唱歌は實に侮るべからざる效を持つて居るもので

あります、それ故私の幼稚園ではあらゆる唱歌集、音楽雑誌と首つ引で、なるべく多くの唱歌を幼児に教へて居ります。しかし十分流暢に唱へるやうになるまでは次ぎの歌に進まないことに決めて居ります、彼等は誤れば皆同じところの發音をあまりあります。これは國語發音法の相違から來るところでありますから、斯る箇所は十分に訂正してやります、さうするとその次ぎからはもう誤らないのであります。

私の幼稚園の模様は大抵以上のやうなわけでありまして、内地の幼稚園とは随分違つた方法に依つて居るのであります、同じ目的に向つての保育ではあります、事情が違ひますために方法手段に於ては内地の幼稚園に於ては尙多くの顧慮と躊躇を要すべきやうなことを行つて居るといふ傾きがあることは私達自身に於ても十分に之を認めて居るのであります。

以上の如き方法で幼児を取扱ひますので、收容

後一ヶ月位に於ける幼児の變り様は實に著しいものがあるのであります。

私達の事業は漸く緒に就いたばかりであります、前途はまだ遼遠であります、善良な園風を作るために未だ多くの努力が費されなければならぬことを思ふと私は言ひ知らぬ緊張を覺えるのであります。

朝鮮の家庭が幼稚園といふものに對して如何に不馴れであつたかといふことを證するお話をしてこの長いお話を終りたいと思ひます。始めて幼稚園の授業を始めた日にお辨當を持つて來るやうにと申してやりますと翌日はククスといふ日本のそらめんに類する食物を附添が持つて來ました、これが馬鹿々々しく嵩張りますもので、大きな廣蓋様のものゝ上にククスを一ぱい積んで幼稚園へ持ち込まれた時は吃驚しました。それでお辨當は斯ういふ風にして持つて來て下さいと説明してやると翌日からはお辨當らしいお辨當を持つて來るや

うになりました。お辨當といへば分ること、思つてゐた私達が迂遠なので、朝鮮の家庭ではお辨當などと云つて一回分の食料を簡單に處理して持たして寄越すなどといふことを夢にも知らないのではありません。

次ぎに失敗しましたのはお湯の用意でした。幼児全體の數を見計つてこの位あつたらばと用意して置きましたお湯がお晝の時大不足を告げました、お湯を飲むこと、飲むこと、私達の想像が及びもつかぬ程彼等はお湯を飲むのであります、それ故彼等は頻りに小用に行きたがりです、乃で私はお湯といふものはさう無暗と飲むものではありませんとよく説明して、お湯を飲む量を少くして食事し得るものを賞めるやうな手段を取りました、さうしたら幸ひに彼等は漸次お湯を飲む量が少くなりました、今では茶椀に二杯位で一度の食事を済ませることが出来るやうになりました。

私はこの幼稚園に入ります前に、腹を立てまい、

臭いと言ふまい、汚いと言ふまいと三つの誓ひを一人で立てたのであります。なせならばこの三つを封じて置かない限りは私のやうな疝癩の強いものには兎ても勤らないと思つたからであります、而してこの三つを我慢して毎日自分の理想を行ふやうにして行きましたら、今では三つの誓ひは些の苦痛を伴はずに守られるやうになりました。懸がてこの誓ひの規を超えまいと恐れることなしに自分の仕事に従つて行ける日の來ることを私は願つて居るのであります。

女だてらに生意氣な申分かは存じませんが御國の爲めに幾分たりとも盡したいといふ衷心の欲求から、たとへ些かたりとも私相應の辛苦を嘗めて朝鮮幼兒の爲めに保育の曉鐘を撞くべく、數ならぬ身をこれまで捧げて來たといふことは、私の國家意識の上に多少の満足と與へるのであります。特に朝鮮に於て教育の第一階級たる保育の任に當つて居るといふことは私の身にとつて實に光榮ある職責と信じて居るので御座います。(完)

近頃の玩具

武 田 眞 一

近頃流行る玩具は何んな玩具でせうか、何ういふ新しい玩具が現れて来たでせうか、戦争は玩具に何んな影響を與へて居りませうか、こんなことを知るべく記者は一日三越を訪うて兒童用品研究會の武田眞一氏に御面會を願ひました、而して以下に記すやうなお話を伺ひました。

木 製 玩 具

近頃の玩具には木製品が多くなりました。葉鐵製のものなどは餘程注意して隅々などを圓めて拵へても危険が全然ないといふ譯にゆきませんので何うもあまり需要がありません。

近頃の木製玩具と申しますのは箱根細工や何かの玩具と違ひ、色彩の非常に濃厚なものが多いであります。而してあらゆる事物を模造して玩具としてあります、かなり精巧に出來て居り、隨分

可愛らしいものが多いので、青や赤や石竹色等のあざやかな色を塗つて、鸚哥、駱駝、虎、兔、家禽に餌を與へる子供等其他いろ／＼澤山のものが出來て居ります、乗物としては電車、汽車、自動車等があります。二尺四方位の大きさの自働車もあつて子供がその上に乗つて自由に動かすことの出来るやうになつて居るものもあります、三輪車もあります、木馬もあります、又牧場を形づくる小舎や蓄舎や牛や柵や樹木などの一組になつたものもあります。其他一々申上げることが略しますがいろ／＼のものが木製玩具として造り出されて居ります。是等の木製玩具は多く地方の工藝學校若しくは徒弟學校などで造られるのであります、三越に參つて居りますのは富山工藝試驗所、弘前工藝

學校、秋穂徒弟學校等の製品であります。

木製玩具の種類をもつと數へ立て、みれば椅子、テール等を中心として柄杓、バケツ等の家具は全部出來て居ります、水車もあります、昔ながらの龍吐水もあります。

以上の如く木製玩具の種類は實に多いのであります。木製玩具は觸れてみて温いやうな感じがし固いけれども矢張一種のやわらかさがあつて、一種なつかしい肌觸りを與へるものであります。これが葉鐵やセルロイドですと斯う行きませんが、合せ目などが剝がれると切立つて居りますので直ぐ怪我をする恐れがあります。日本は一面から見て木の國とも言はれるのであります、材料は澤山ありますから今後木製玩具は益々多く造り出さるゝやうになるでありません、而して世界の市場に於ても木製玩具とし言へば日本玩具のことを意味するといふやうな日の來ることは誠に望ましいことであると思ひます。

護謨製玩具

次ぎには護謨製の玩具であります、これは戰爭以來材料が非常に拂底となつて居りまして、自働車のタイヤなども却々昂騰して居る位でありますから、大會社などでは護謨玩具などには手が廻り兼ねるやうであります。それでも護謨製玩具もかなり澤山出來て居ります、水鐵砲、チャブリン、舌出し、人、軍艦、動物等種々雑多なものがあります。今では護謨製玩具の供給は外國から仰ぐ必要はなく全部内地産を以て需要を充たし得るのみならず、外國に向つて盛んに輸出するやうになつて來ました。日本で出來る護謨製玩具は質に於ては稍々外國のに劣るのであります、値段の點に於て約半額でありますから非常に歡迎されるのであります。

護謨毬は矢張何時までも子供に喜ばれて居ります、毬の上に縮緬を被せるといふやうなことをし

て日本風の加工を施した毬などは内地でも歓迎されますが、殊に盛んに外國へ輸出されるのであります。何うも護謨製玩具などは製造者が内地への

供給よりも外國へ賣り出すことを主眼として居りますので、輸出本位といふ條件の下に彼等は日本の子供には稍々不適當な玩具を承知しながら造つて居るのであります、たとへば人形の顔なども日本人の顔ではありません、衣服なども無論洋装になつて居るといふ具合であります、これは護謨製品ばかりでなく輸出品は皆外國向きに拵へるのであります、近頃では日本でもラグ、ブック(布本)が出来ますがこの繪本に描いてある子供の顔なども西洋の子供の顔であります、傍に書いてある文句も外國語が刷り込んであるのですが内地へ賣出すのだけは流石に文句だけは日本語に變へてあります。輸出額を多くするために斯る必要があるとします。輸出額を多くするために止むを得ませんが、一方日本の子供の生活にもびつたり會ふやうな日

本本位の玩具をも併せ造るだけの餘裕を玩具製造者が持つに至らんことを私達は希望するのであります。

セルロイド製玩具

セルロイド製の玩具といふものはつややかで、色、光といふ點から申しますと實に申分がないのであります、おもちゃ屋の店先にセルロイド製の玩具がないと實にさびしいのであります、何といつても賑かな心持のする、ハイカラな、文明的な氣持を起させるのはセルロイド製の玩具であります、ゆかしげな日本古來の玩具などと比較してみるとセルロイド製の玩具は際立つた對照を示すのであります。日本古來のセルロイド製玩具も盛んに輸出します、而して人形などは無論輸出本位に造られたものが大部分であります。セルロイドの人形でも却々いろいろの種類がありまして、一番大きいものになりますと五圓位するものがあり

ます、セルロイド製の玩具數種を網の中に入れて一組として五六十錢位で賣つて居るのがありますがお土産などにして子供から喜ばれるものでありませう。

金屬製玩具

金屬を利用した玩具類は大抵發條、齒車、バネ仕掛等に依つて活動するやうになつて居ります子供は又この活動性のある玩具を非常によろこぶものであります。金屬の玩具は危険であるといふ批難もありますが、近頃では製造者が餘程注意して造つて居りますので、それほど危険視する必要もなくなつて來て居ります、それに葉鐵印刷等も餘程巧妙になつて參りましたので、却々面白い玩具が澤山出來るやうになりました、汽車、電車、レール、軍艦、魚、鳥等矢張りいろいろの種類があります、是等の玩具は目下その材料を外國から仰がなければなりませんので、未だ自由に製作し得る

域には達して居ないのであります。それに金屬製の玩具は何處か日本趣味に同化し切れないやうなところがあるやうに思はれます。

繪本類

次に繪本類であります、これも玩具の一種としてお話いたしますと、ツイ近頃まででありました木版の繪本類は殆んど全く影を潜めて了ひました、これは言ふまでもなく幼年畫報式の石版畫が子供をより多くよろこばせるためでありまして、木版の畫紙やポンチやは漸々見られなくなつて行くのであります。それに近頃では前にも一寸申しましたラグ、ブックが流行して參りました、これは子供同志で引つ張り合ふやうなことがあつても裂ける憂ひがなく、汚れたときには洗濯すること出來ますので非常に便利であります。笛入繪本といふなども出來て居ります、これは繪本の表紙に笛が貼付してありますので吹けば鳴ります。

人形其他

人形は何時の時代にも、子供に好かれる玩具の一つであります。純日本人形は顔の形なども在來のものとはあまり變りません。凸坊、茶目坊といったやうなとぼけた人形は輸出本位として造られますので顔なども西洋人らしく出来て居りますが髪の中の黒い日本の人形は昔ながらの優しい、美しい日本人の顔を保存して居ります。尤も人形の着る衣物などは多少現代風俗を反映して居りまして、洋装をした日本の人形などもあるのであります。又手足を泥でつくり、顔だけをセルロイドで造つた人形などもあります。

人形の髪は附屬品一式、帽子、靴等もあります。が、その他に「お人形の家」といつて焼繪の施してある疊込みの木箱に人形の帯、頭巾、涎掛、着物、夜具、枕、風車、リボン、鏡などを揃へたものもあります。

女兒の好む玩具と申せば矢張毬、お手玉、指輪や指貫を拵へるための南京玉等でありますが近頃ではお化粧道具一式、呉服屋ごっこ、洋食器類、セルロイド製皿一式、書齋裝飾品、生花ごっこ、造花ごっこ、造花の稽古、臺所あそび、雨道具、等あらゆるものがあります、即ち社會にあるすべてのものを小化して玩具としてあるのであります。男の子の好む玩具を雜然と並べてみますと先づ喇叭、ヨット、自働車、肩章、ランドセル、旗、銃、大砲等であります、殊に時局の影響を受けまして輸出本位には出来て居りますが速射砲、タンク、砲車、其他歐洲戦争の産んだ最新發明の武器なども皆玩具として小さく模造されて居ります、露西亞軍が伯林を陥落せしめる雙六様のものなども出来て居ります。

室内の運動具としてはネット・ボール、ピンポン、闘球盤などが不相變よろこばれて居るやうであります。

會 告

○會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時の御名前へと御同一になし下され度く、假令は初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前へにて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊 郵稅共金拾參錢 六冊前金郵稅共七拾貳錢
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會免諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛
本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正六年十月一日印刷納本
大正六年十月一日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 守 岡 功
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレーベル會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

顧問 高島平三郎先生

五ドモ

子供繪雑誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

本誌の四大特色

- まじめで教育的なこと
- 繪が叮嚀で美麗なこと
- お話が易しく面白いこと
- 片假名のみで讀易いこと

□ 定價 一冊十二錢
□ 郵 税 五 風

□ 六冊郵税共六十九錢

□ 十二冊 一圓三十一錢

□ 郵税共

□ 總て前金の事
合本定價

各集郵税共五十錢

東京市小石川區
林町五十七

コドモ社

電話番町六一八
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より

同 大正三年十二月號まで

同 大正四年一月號より

同 大正四年四月號まで

同 大正四年七月號より

同 大正五年一月號まで

同 大正五年六月號より